令和４年度第１回宇都宮市民大学運営協議会　会議録

１　**開催日時**　　令和４年４月２２日（金）　午後３時から

２　**開催場所**　　人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター５階）

３　**出席委員**

島田　繋雄　会長　　丸山　純一　副会長　　江田　壮一　委員

大山　眞一　委員　　川島　育郎　委員　　待山　妙子　委員

（以上６名）

４　**欠席委員**

赤羽　幸雄　委員　　阿部　ゆり　委員　　柴田　慎司　委員

野中　正知　委員

（以上４名）

５　**出席職員**

生涯学習課長	鈴木　康子
生涯学習課長補佐	髙桑　昭祥
家庭教育・地域人材グループ係長	藤田　直樹
家庭教育・地域人材グループ総括	久保　孝弘
家庭教育・地域人材グループ社会教育主事	若林　慎
家庭教育・地域人材グループ主任主事	川田　友理恵
家庭教育・地域人材グループ主事	篠﨑　さくら
家庭教育・地域人材グループ主事	児矢野　はるひ

６　**公開・非公開の別**　　公開

７　**傍聴者の数**　　０人

８　**議事**

・　令和３年度宇都宮市民大学事業報告について

・　令和３年度宇都宮市民大学収支決算について

・　令和４年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

・　令和４年度宇都宮市民大学収支予算（案）について

９　議事の経過

（１）令和３年度宇都宮市民大学事業報告について

（２）令和３年度宇都宮市民大学収支決算について

島田会長	令和３年度の公開講座について，コロナ禍による中止の際に連絡をいただいたが，受講者などから反響や意見はあったか。
事務局	中止をしたことに対し「行きたかったので残念」や「またの機会があればぜひ受講したい」との声があった。
島田会長	公開講座では，若い方の申込みも多くあったということで，ぜひ開催したかったとのことだが，新型コロナの感染状況を踏まえると，致し方なかったかと思う。
大山委員	公開講座は中止となる一方で，資料によると，今後機会を設けるとのことだが，延期に近い中止ということか。
事務局	令和４年度の公開講座は検討中である。講師の都合も確認する必要がある。延期を前提として中止としたというよりは，一旦区切りとして中止を決定した。今回と同じ内容を含めて，今年度の企画は検討中である。
大山委員	令和２年度の公開講座は中止となったが，とちぎテレビで引き継いで放映する形で実施ができたという経緯があったが，今回はそうはならなかった。ほかにも公開講座の候補があるのか。
事務局	令和３年度の内容は候補の１つである。ほかにも候補があり，検討していきたい。
細川委員	昨年度に初めて委員となったため，以前はどうであるかは分からないが，公開講座では，周囲の方を含めとても楽しみにしていた。講師が栃木県出身とは知らなかったが，興味を惹かれ，行きたかった。
赤羽委員	専門講座の資料を見ると，受講者の年齢層がはっきりしている。６０代以上が中心であるが，開催時間などからすると，この傾向はやむを得ないと感じる。一方，公開講座では１０代までと申込者の年齢が拡げられていて，目的意識を持って募集等を実施したと思う。今後のところがあれば，お聞かせ願いたい。
事務局	専門講座は，平日の有料講座であり，６０歳以上の方の申込みが多かった。公開講座では，１０歳代など幅広い年齢から申込みがあった。多くの市民に講座を知っていただける機会になればと考えている。 年齢に制限を設けているわけではないが，今回は「はやぶさ」をき

っかけに，若い方から多くの申込みがあり，事務局としても驚いたところであった。事務局としては，年齢に制限なく，若い方も高齢の方も，皆様が学べる機会を提供したいと常日頃から考えているので，これをきっかけに，若い方がどのような所に関心を惹かれるのかなどを考え，受講者の年齢構成が均等になるところを目指したい。

島田会長　周知の仕方によっても変わってくると思う。私も，学生がやっていることを周知し，企業に依頼，農家に協力いただいた。そのようにメディアをうまく使うことで幅が広がっていくのではないかと感じた。周知の仕方についても，ぜひ皆さんの意見を伺いながら進めていければと思う。

大山委員　受講者の年齢層について，自身で土曜日に講座を企画するなどしてきたがなかなか難しかった。市の広報を見る若者があまりいないのではないか。時間がある高齢者が市の広報に目を通す。そのため，市民大学の企画もリピーターの獲得を意識して企画する傾向にある。

市民大学に限らず，生涯学習センターでも講座を持っており，高齢者中心となっているのではないか。一方で，刀剣の講座を実施したときに，若い女性が参加したことから，講座の内容によるのだろうと思う。対処していきたい。

（３）令和４年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

（４）令和４年度宇都宮市民大学収支予算（案）について

島田会長　委員の皆さんから意見・質問を伺いたいが，いかがか。

川嶋委員　新型コロナウイルスの感染者数が高止まりで推移している。前期の市民大学専門講座は５月２３日からスタートする中，感染症対策を徹底するということで定員を引き上げたとのことだが，開催等の判断はどのようになるのか。

事務局　実施に関しては，感染症の拡大時には国，県，市の順でイベント等の開催方針が決定となることから，それに基づいて実施の可否は決定していく。市民大学の会場では，必ず座席を１つ空け，講師との距離を２ｍ以上空けて開催することができる。宣言などがなければ，開催する予定である。

大山委員　前期専門講座の定員が５０名となるとのことで，人気の講座は１００名以上の応募があると思うが，最大何人を受講決定とするのか。

事務局　受講決定後のキャンセルを見込んで，申込者のうち最大で６０名を受講決定する予定である。

野中委員　この２年間，事務局では新型コロナの感染対策の苦労があったと思う。総合文化センターの方でもチケットを売り出しては払い戻しを繰り返した。子ども総合科学館の方でも企画展を準備しては中止となり，同じような苦労を体験した。

全体的な内容についての感想は，定員や新型コロナの問題が出ていたと思う。講座の内容によって実現できるかは分からないが，実際に集まるのは５０名で，希望者にはＺＯＯＭで受講するなど，時代に合わせた取り組みというのも今後求められてくる。とちぎ未来づくり財団でも，事業を実施する際の工夫に取り組み始めたところである。

公開講座について，昨年度は講師の吉川氏の人気があり，文化会館小ホールから大ホールに会場を変更したと伺った。今年度は２月２５日に開催予定であるが，まだ講師が決まっていないのでどのくらい集まるか見えない状態である。新型コロナの感染者数の増加は，年明け，連休，夏休みのところで山が来るのが見えているなかで，最初から大ホールを取っていても良かったかもしれない。その方が盛大にできるかと思う。

島田会長　事務局からも，課題のところでオンライン開催を視野にとの話があった。オンライン開催について委員の皆さんはどのようにお考えか。

大山委員　前から話題になっていて，事務局からは，設備が整わないので現状では難しいとのことだった。しかし，社会的要請や若年層を取り込むには有効な手段になると考える。予算の問題もあり難しいと思うが，積極的に取り入れることを考えていただけると良い。

赤羽委員　とちぎボランティアＮＰＯセンターでも，ボランティアをしたい方向けの講座を１６回，２０人定員で開催予定だったが，コロナ禍により少人数のオンライン開催に変更した。ＺＯＯＭで実施するメリットとデメリットがあり，実際にはＺＯＯＭでの参加ができない人もいる。逆に，往復の時間を考えて，時間帯によって家や職場を離れられないという人が参加できたケースもあった。そのため，リアルとＺＯＯＭ，両方使っていこうと考えている。やはり，設備関係が上手く操作できないなど，トラブルもあり大変である。一方で市民大学は，非

常に大人数で資料をたくさん使う講座がある印象で，また違う課題もあると思うが，チャレンジしても良いと思う。

川島委員　ＺＯＯＭは，現在のような状況だと避けられないと思う。

野中委員からもあったように，企画しては中止となってしまうと，市民大学のような講座そのものの存在が浸透しない，皆さんやる気になっているのに潰れてしまうことにもなりかねない。これからを考えると，オンラインとの併用が一番良いのではと考えている。

丸山委員　デジタル化がさまざまなところに関わってくる。ＹｏｕＴｕｂｅで４０代の方が作った動画を毎日見ている。たとえば，ロスジェネ世代，その上の年金で安泰な世代，経済や政治などの話をよくされている。先ほどの資料に戻ると，６０代，７０代，８０代と，高齢になるとなかなか外出が難しいのではという方が多く受講している。

生涯学習という観点から，忙しい２０代，３０代，４０代，学校を出た後の生涯教育の対象となる若い方をどのように取り込んでいくかを考えると，ＺＯＯＭを試験的にやることで，年代が変わることもあると思う。ＺＯＯＭは有料となるのかもしれない。

双方向的なものといえば，Ｙｏｕｔｕｂｅにおいて自分でチャンネルを作って学生に配信している。大学では機器などの課題があり，自分でチャンネルを作った。そういうことができるかもしれない。教育委員会だけでやるのが難しいならば協働で実施するなど，手法が色々と考えられると思う。

事務局も中止になって大変だったと思う。今後，ビットコイン，暗号通貨で手数料を下げることができる，デジタル化して課金するなど，５年後，１０年後などには受講料の支払い方法も変わるかもしれない。諸外国ではデジタル通貨が進んでいるところがあるのではないか。デジタル化について日本は遅れている。今までと同じように行うことも考えられるが，コロナ禍においてそれで良いのか。今は難しいと思うが，検討してほしい。

個人的な感想だが，グループワークなど，双方向的な講座を入れてはどうか。生涯学習センターでは取り組んでいるとは思う。以前聞いたところ，高齢の方は意見を言うのが難しいとのことだが，意外とそうでもなさそうなところがある。定員を制限している現状，コロナ禍の中で難しいところもあると思うが，双方向的な，受講生が直接先生

に質問をすることも望んでいるのではないかと思う。講師と相談して，工夫しても良いのではないかと思う。現在の講座は一方通行のような感じがする。それも良いが，デジタル化して，多くの人に広げ，その時間だけではなくオンデマンドなど，パスワードを入れれば見られるという仕組みも可能ではないか。一気にＺＯＯＭに切り替えると，高齢の方にとっては不満も出ると思うが，そういう方向に舵を切る時期なのではないか。

島田会長　メディア・アーツ専門学校でも，新型コロナウイルス感染症流行の時期にはＺＯＯＭを入れ，東京から招待する講師にはオンラインでの授業をお願いしていた。学生はオンライン授業への抵抗がほとんどなくなっている。この年齢を上げていけば，そのうち，市民大学の主な受講者も抵抗がだんだんなくなってくるのではないかと思う。

野中委員　実際に集まる講座とオンライン講座について，ハイブリッドでいろいろ考えていくのがこれからの時代かと考えている。自身の財団には５つの事業所があって，ＺＯＯＭの使い方講習会を実施した。

令和４年度においては，市民大学予算を資料のように実施するとのことだった。令和５年度に向けて準備をしていく必要があるのではないか。主な受講者となる年齢層の環境が整っていないので，不満が出るのは目に見えているが，変革期に配慮していくべきかと思っている。

細川委員　自分自身，文化祭の委員をやっており，実際に集まってのダンスの発表は中止となったが，ＺＯＯＭで実施しようとの話があり，パソコンとスマホにＺＯＯＭアプリを入れた。しかし，９２歳を筆頭に，私の周りでは６０代，７０代の女性ばかりで，ＺＯＯＭはとてもできないとのことだった。また，電話で連絡網をしていたが，聞き違いがあることや，こういう時代なので，グループラインをやりましょうとなった。しかしスマートフォンを持っていない方もいる。ガラケーのサービスもあるが，使いこなせない方もいる。男性なら，通信とラインをやる方が多い。自分は，中央生涯学習センターの事務所で聞いて勉強し，アプリを入れることはできた。受講者の皆さんにそういうことを自分でやって，さらに時間でアクセスしてというのは難しいことで，シルバー世代では大変だと感じる。

こういう機会に，歴史の講座をすると，人気になると思う。

宇都宮市においても，スマートフォンの使い方講座をやると聞き，す

	ごく良いことで，期待はしている。スマートフォンの使い方講座を入口としてやると，うまくいくのではないか。
島田会長	委員の皆様から様々な意見が出たので，事務局で参考にしていただきたい。
事務局	宇都宮市においては，デジタル化を含め，スマートシティを掲げ，デジタルと人で動かしていく都市を作りたいと考え，取り組んでいる。デジタルデバイド，キャッシュレスなどの課題に並行して取り組みながら，紙をなくすのではなく，良いところは残していく。生涯学習の申込みも，受講も，決済もデジタルで，となっていくと思うので，我々も工夫していきたい。
島田会長	令和４年度宇都宮市民大学事業計画（案）及び収支予算（案）について，承認いただけるか。
（一同）	（異議の声なし）
島田会長	以上で，本日の議題は，全て終了とする。